

公益財団法人北海道サッカー協会

2015プロジェクト

取組みを振り返って

2015プロジェクト



2025プロジェクトへ

(公財)北海道サッカー協会2025PJ本部

平成28年4月1日

1、2015PJの全体統括と2025PJに向けて

(1) はじめに

本協会は、黎明期、草創期における協会関係者、指導者のたゆまぬ労苦により歴史を刻み、80数年に及ぶ伝統を誇り、各地区並びに各種連盟を基盤として、キッズからシニア、女子、フットサルに至るまで各種別にわたって普及発展を遂げ、競技力の向上に努めてきた。

特に近年においては、平成10年(1998年)の財団法人化にはじまり、2002FIFAワールドカップ日韓大会札幌開催、北海道フットボールセンター(協会事務所)の設置、札幌サッカーアミューズメントパークの建設、北海道トレーニングハウス「夢きたれ」の建設、公益財団法人化の実現など、社会的にも重要な責務を有している。

また、JFAより都道府県チャートが2012年に完全版として発行された。この都道府県協会チャートは格付け・評価するためだけでなく、JFA並びに47FAの理念・ビジョン・目標を具現化するため、また、47FAの総合力、特色を伸ばすための資料として出されたものである。本協会は総合チャートで8位となり、4つの部門別では、

- ① 〈基盤〉47FAの状況を示す(組織・人材、財政・施設) 第2位
 - ② 〈普及〉47FAのサッカーファミリーの拡大を示す(登録、支援制度活用度) 第2位
 - ③ 〈強化〉47FAの競技力の向上を示す(代表選手、チーム成績) 第17位
 - ④ 〈運営〉47FAの競技会運営状況を示す(JFA代表戦、全国大会主管) 第12位
- となっている。基盤、普及の面で2位と高評価を得ているが、日本代表選手の輩出、全国大会上位進出、全国大会運営等によりいっそう取り組まなければならない。

(2) 「21世紀8戦術アクションプラン」→「2015プロジェクト」へ

2001年(平成13年)に北海道のサッカーファミリー拡大を目標に掲げて「21世紀8戦術アクションプラン」を立ち上げ、サッカーファミリーの拡大をメインに据えて以下の3点に取組み、登録数の増加などの効果をあげた。

○普及拡大 ～4種・1種の登録拡大、フットサルの普及、女子サッカーの普及

○事業見直し～各種大会の創設、指導者の養成

○基盤整備 ～協会組織の活性化、協会財政基盤の確立、市長村協会の拡充

その後、2002年FIFAワールドカップ日韓大会の成功を経て同アクションプランを発展的に解消し、「ポストワールドカップ」として、「HFAの理念」、「HFAのビジョン」「HFAの約束2015」「HFAの約束2050」のもと、2006年に本協会の中枢をなすものとして「2015プロジェクト本部」を創設した。2015PJの一つ一つの実現が本協会の発展につながるものと確信し様々なアクションを試みてきた。

(3) 2015PJの現状(成果と課題)

本プロジェクトの中心課題となっているサッカーファミリー拡大において、キッズからシニアまでの取組み等により、チーム数はやや減少しているものの個人登録数がかここ数年増加し、全国的に見てもチーム、個人登録数は47都道府県中第3位を占めている。エスポラーダ北海道のFリーグ参入が実現し、女子においてもチャレンジリーグ参入で今後のなでしこリーグへの挑戦に期待がかかっている。また、ユース世代や女子、フットサル等のカテゴリーにおいて毎年複数の日本代表選手を輩出し、全国大会においてもフットサルやユース世代などでベスト4以内の活躍が見られる。

サッカーファミリー拡大において、各地区協会並びに各種連盟による「ファミリー拡大実務担当者会議」を開催し、具体的な手立てによりファミリー拡大に至った報告等がなされ、互いのよい事例を参考としながらできるところから実践することにより、少子高齢化、学校の統廃合等の厳しい状況の中で現状維持または個人登録数の増加にもつながっている。また、北海道の広域性を考慮し5ブロック体制(札幌、道央、道南、道東、道北)の確立により組織の見直し、改善を図り、各種別リーグ戦、トレセン活動の充実によりファミリー拡大への努力がなされてきた。

周りを取り巻くサッカーファミリーについては、数年にわたり25万人を推移し、25万人構想が実現しているとおさえることができる。これは、本協会、各地区協会、各種連盟役員、指導者等が「ファミリー拡大」を常に意識し、拡大への努力を続けてきた成果と考える。今後は「35万人構想」と目標設定が上がるが、日本代表やJリーグ人気に依存するだけでなく、北海道のサッカー環境の整備や魅力ある大会の開催、リーグ戦文化の定着等やさらにサッカーへの関心を高めていくことが大切である。

☆2015PJの成果

○サッカーファミリーへの啓発、また、地区協会、各種連盟並びに役員等の意識化により一定の歯止めをかけ周りを取り巻くサッカーファミリー25万人構想が実現できた。地区協会並びに各種連盟による実務担当者会議の継続が必要である。

○「アクションのないところに成果なし」様々なアクションにより各部門で若干の温度差があるが着実な成果を大切にしたい。

(各部門の調査結果並びに報告参照)

☆2015PJの課題

○周りを取り巻くサッカーファミリーの定義及びカウント方法が的確であったかの見直し、改善を図っていく必要がある。

○2015PJ本部の構成員については本協会の若手や女性の発想をより生かすことや、協会役員以外からサッカーに理解を示す学識経験者並びに企業関係者等の意見も取り入れたい。競技力の更なる向上とともに、資金面の援助が重要である。

○本PJへの理解をサッカー関係者のみならず、サッカーを愛する一般サポーターへの啓発を図るためにホームページ等の広報活動が必要である。

(4) 2015PJから2025PJへの継続と発展

2015PJとした推進してきたものを、現状と課題を整理し的確に総括した上で、2016年からの2025PJが円滑にスタートできるようにする。

2015年2月に示された「短期・中期・長期ビジョン」で2016年～2025年(10年間)でなすべきビジョンとして、以下の8点があげられている。

- (1)北海道サッカーファミリー35万人
- (2)道民チーム「コンサドーレ札幌」のJ1定着と優勝
- (3)道民チーム「エスポラーダ北海道」の上位定着と優勝
- (4)日本代表・オリンピック代表選手輩出
- (5)北海道代表チームの全国上位進出
- (6)なでしこリーグチームの加盟育成
- (7)JFLチームの加盟育成
- (8)スポーツ医科学に関する取組み

8部門の中には、実現しつつあるもの、まだ実現の見通しの立たないもの、また、協会として側面的支援にとどまるものなどがあるが、それらを整理した上で推進していかなければならない。本PJとして、改めて部門ごとの短期目標(2016年～2018年の3年間)、中期目標(2019～2022年の4年間)、長期目標(2023～2025年の3年間)を別途設定し、目標達成を目指していく。

また、本協会はその広域性を考慮して、5ブロック体制を構築しサッカーファミリーの拡大や各地区協会並びに各種連盟の組織の充実、各カテゴリーにおけるトレセン活動、リーグ戦文化の定着化を図ってきた。本PJにおいてもその内容について更なる工夫改善を図ることが求められる。

さらに、プレーヤーズファーストの観点からサッカー協会の大きな使命である「豊かなサッカー環境」の面から、天然芝、人工芝の更なる整備拡大が必要である。そして、半年間も冬期間雪に閉ざされる本道の現状を考えると全天候型の屋内競技場の建設が求められ、関係機関との連携を図りながらその実現に向けて取り組んでいく。

今後の進め方について、具体的な手立て、アクションの方法等については2025PJにゆだねることになり、即効性のある特効薬となるものはなかなか見つかりにくい面があるが、以下に2025PJの各部門の現状、目標、重点施策を設定した。各部門が達成できるよう、さらに英知を結集しあらゆる角度から前向きな努力、工夫を続けていくことにより2025PJをさらに進化させていきたい。